



# ゆかり通信

令和2年1月発行



昨年（令和元年）は大変お世話になり、ありがとうございました。  
本年はこれまで以上に、希望が続く柏崎をめざして活動してまいります。  
宜しく願い申し上げます。

柏崎市議会議員 近藤由香里

## 1、一般質問（12月定例会議）を行いました。

### 質問1、安心して働ける職場づくりを目指して



Q1) がん等の病気にかかっても、治療をしながら持てる力を生かして働けるよう、「治療と仕事の両立支援」を柏崎市として進める考えは？

A1) 各事業所で治療と仕事の両立支援ができるよう、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」や国の支援制度の周知につとめたい。

Q2) 職場で長期休職者が出た場合、代替を募集しても見つかりにくい。代替人材バンク創設により、地域人材の把握・確保を検討してはどうか？



A2) 代替確保の難しさは承知しているが、まずはハローワーク、シルバー人材センター、派遣会社などの活用をすすめたい。

Q3) 骨髄バンク・ドナーが骨髄等を提供するとき約8日の通院・入院が必要となり、仕事を理由に提供辞退するケースが多い。職場の理解・確実な提供を進めるため、骨髄バンク・ドナーへの助成制度を設けてはどうか？



A3) 次年度から骨髄等を提供したドナーとその職場（ドナー特別休暇制度のある事業所）への支援制度を新設して、環境整備・理解促進につとめたい。

### 質問2、現実と向き合う災害対応

Q1) 災害時に多発する女性や子供への犯罪・暴力被害防止対策は？  
また女性の持つきめ細やかな視点や多様なニーズへの配慮は、  
防災分野に活かされているか？

A1) 中越沖地震以降、市では女性相談員を増やして、細やかな対応につとめている。防災分野でも女性消防団員等の活躍もふまえて、男女共同参画を進めたい。





Q 2) 2020 年度開庁予定の市役所新庁舎は、標高の低さから浸水被害が不安視されてきた。庁舎が被災した場合に司令塔となるサブ防災拠点を、はっきりと市民の皆様にお示ししてはどうか？

A 2) 新庁舎がそう簡単に被災（浸水）するとは思わないが、あらゆる災害に備えて、「事業継続計画（震災対策編）」の中で、西山町事務所、高柳町事務所、総合体育館、市民プラザなどを本庁舎被災時のサブ災害対策拠点として定めている。

Q 3) コミュニティセンター（コミセン）、小中学校の統廃合により、人口減少が進む周辺地域では、地域の防災拠点やこれまで築いてきたコミュニティ・自主防災組織がどうなるのか、不安を感じている。今後の地域防災拠点の再設定、地域コミュニティ・自主防災組織のあり方を、市はどのように考えているのか？



A 3) コミセンを廃止しても、しばらく建物は避難所として使用できる。各町内の集会所の活用も検討する。人口減少地域における自主防災組織・地域コミュニティのあり方は、中央地区の5町内合同の自主防災組織「東訪振興協議会」の事例も参考に、住民の皆さんと丁寧に協議しながら検討したい。

### 3、新年度の「介護人材確保」について。

2019年度の事務事業に対して市長による最終評価が出されました。この評価結果にもとづき、新年度予算が編成されます。

介護高齢課に対する最終評価では、9月の一般質問での提案を反映していただきました。



特別養護老人ホームの新設に先立ち、介護人材の確保の上で 既存の特別養護老人ホームの空定員の充足を優先する方策を 検討すること。また、全国的な介護人材の不足を踏まえ、元気な高齢者や外国人の活用の可能性について、事業所の取組状況を検証しながら、検討すること。

現状では介護人材不足により、施設に空きがあっても90人以上の要介護者が入所できない状況です。引き続き具体的かつ実情に沿った質問・提案により、介護人材確保をめざします。

### 4、委員会について。

現在「文教厚生常任委員会」に所属していますが、12月5日～「広報広聴（こうほうこうちょう）常任委員会」にも加わりました。「開かれた市政」を目指して、しっかりと活動してまいります。

近藤ゆかり後援会（後援会長：青木理絵）

〒945-0063 柏崎市諏訪町 1-29

TEL) 090-4534-9982 FAX) 025-333-4724 メール) yurikadou@nifty.com

facebook

「近藤 由香里」 <https://www.facebook.com/yukari.kondou.92>

近藤ゆかり公式サイト) <https://yurikadou.com/>

